

新宮津市総合計画骨子案



国の特別名勝 日本三景「天橋立」



市章



市の木 くろまつ



市の花 みつばつつじ

1 総合計画について

総合計画とは

総合計画は、**宮津市の目指すべき将来像を描く**とともに、その実現に向け、**長期的な展望により総合的かつ計画的なまちづくりのあり方を示す最上位の指針**としての役割を果たすものです。

宮津市では、計画期間を10年間として、これまで6つの総合計画を策定してきました。

平成23年の地方自治法の一部改正により、総合計画の法的な策定義務は廃止されましたが、宮津市の将来のあり方を示し、市民の皆さんと一緒に進むまちづくりの基本指針として必要と考えており、令和3年度から令和12年度までの10年間の計画期間とする新しい「宮津市総合計画」を策定することとしています。

これまでの総合計画

昭和33年度～昭和46年度	宮津市建設計画
昭和47年度～昭和56年度	宮津市振興計画
昭和57年度～平成2年度	第3次宮津市振興計画
平成3年度～平成12年度	第4次宮津市総合計画
平成13年度～平成22年度	第5次宮津市総合計画
平成23年度～令和2年度	みやづビジョン2011 ※現計画

1 総合計画について

総合計画と各計画の関係

～令和元年度	令和2年度	令和3年度～
第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略 → 計画期間を令和2年度まで延長		第2期 創生総合戦略
みやこビジョン2011	基本施策 ①観光を基軸とした産業振興 ②環境保全と生活環境の向上 ③教育の充実と人材育成 ④健康増進と福祉の推進 ⑤暮らしの基盤の整備 重点戦略 1 自立循環型経済社会への転換戦略 2 定住促進戦略	総仕上げ 次期総合計画
	次期総合計画を見据えた重点事項 1 「安全・安心で健やかな」暮らしの実現 2 未来を育む「教育と子育て支援の充実」 3 地域経済の「活性化と持続的発展」 4 地域の宝を活かした「魅力づくりとプロモーション」強化 5 「関係人口創出」を核とする移住・定住対策	
財政健全化	行財政運営指針 財政健全化に向けた取組（平成30年度策定）	次期行財政運営指針
	公共施設再編方針 財政健全化に向けた更なる取組 職員定数の更なる見直し、公共施設の再編推進 事務事業の見直し等による市債発行及び基金繰入抑制 等	公共施設個別施設計画 （投資計画）
	国土強靱化計画(令和元年12月策定)	

明るく豊かな宮津へ

中長期的に安定した行財政運営

2 現総合計画について

宮津市の基本政策「みやづビジョン2011」

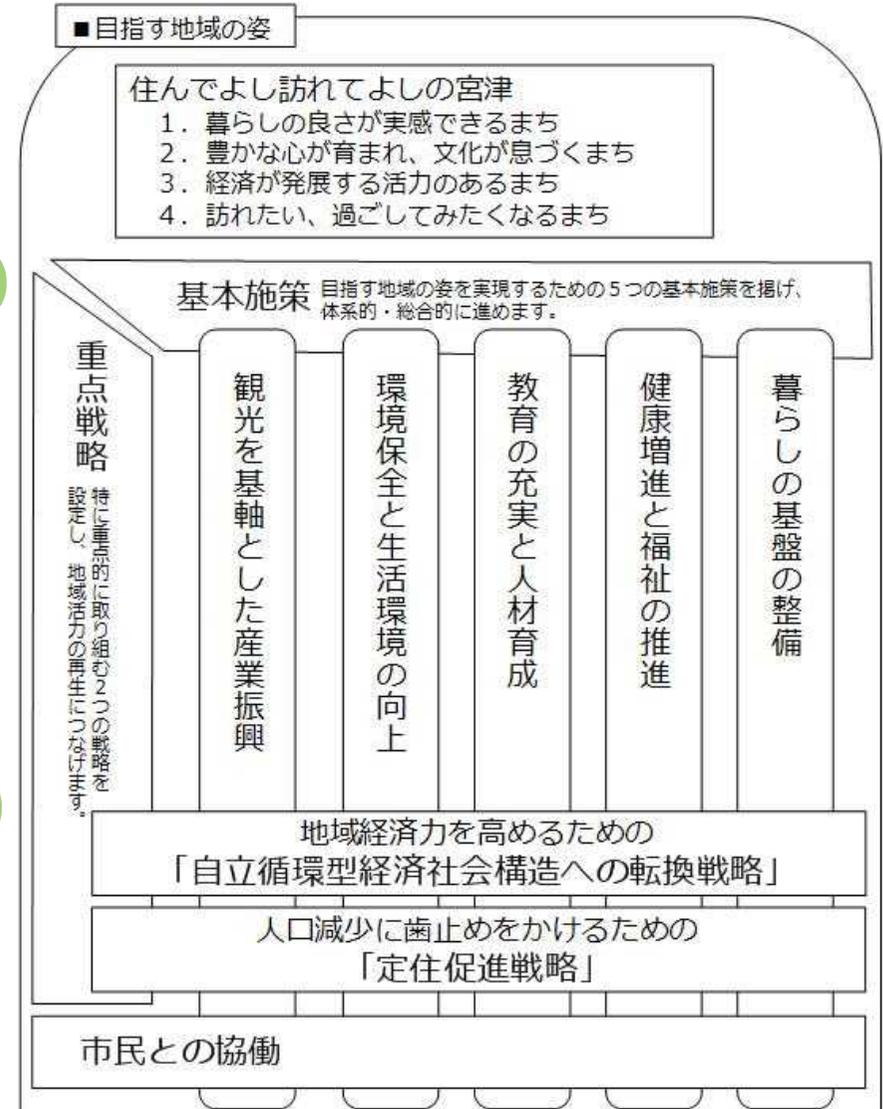
- 宮津市における最上位計画（基本構想）
- H23～H32(R2)の10年間の計画

宮津市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- H27～R2の6年間について、人口の増加や仕事創出を目指して特に重点的に取り組む政策を定めたものです。
- 宮津ビジョン2011の2つの重点戦略を積極的に推進していくための役割を担うもの(実施計画)として策定し、運用しています。

みやづビジョン2011の総括

- みやづビジョン2011は基本構想のみのため、実施計画である宮津市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、今夏、成果を総括します。



3 新総合計画策定の趣旨

【課題】

- ・ 少子高齢化や人口減少、人手不足
 - ・ 市民所得の低迷
 - ・ 地域経済の低迷
 - ・ 空地空家の増加
- 等様々な社会的、地域的な課題が顕在化

【世の中の流れ】

- ・ Society5.0の推進
- ・ SDGsの推進
- ・ 新型コロナウイルス感染症による社会全体の行動変容及び今後の地域社会・地域経済のあり方の変化



【対応するためには】

行政だけではなく、市民、各種団体、企業など地域を構成するすべての主体が知恵を絞り、力を合わせ、主体的なまちづくりの取組を進めることが重要

先進的なテクノロジーの活用や専門的な知識・技術を活用した新たなまちづくりの方策を考えることが必要



現総合計画「みやづビジョン2011」が令和2年度に計画期間が終了することから、社会経済情勢の変化など時代の潮流を見据えた本市の将来あるべき姿と進むべき方向の指針となる、**新たな総合計画を策定**

4 新総合計画の位置付けと策定の視点

計画の位置付け

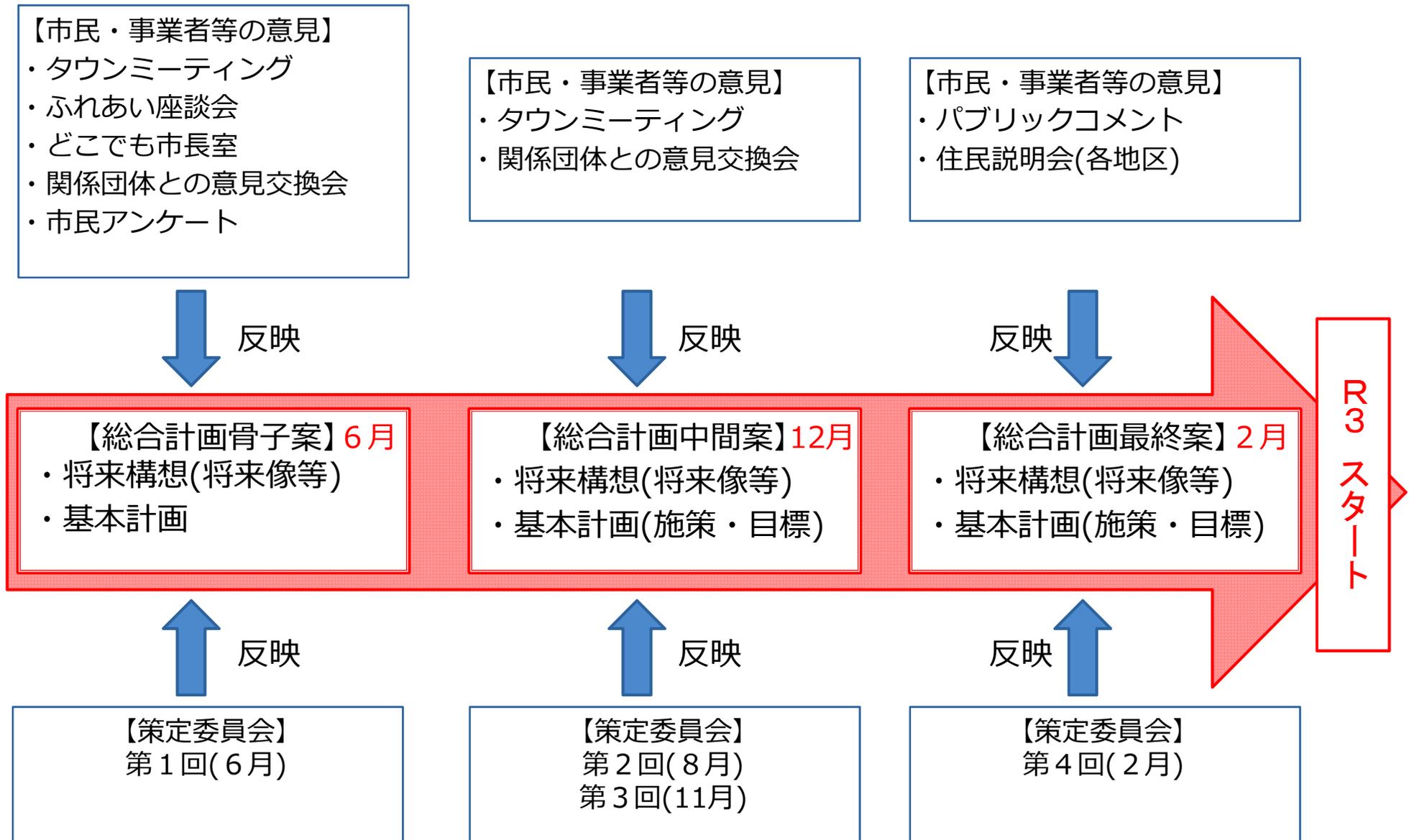
本市の目指すべき将来像を描くとともに、その実現に向け、長期的な展望により総合的かつ計画的なまちづくりのあり方を示す最上位の指針としての役割を果たすものです。

- 行政だけではなく、市民、各種団体、企業など地域を構成するすべての主体が力を合わせ、将来像の実現を目指す計画
- 具体性があり、体系化された、わかりやすいまちづくりの指針

策定の視点

- 市民と市の協働により、役割分担を明確にした計画づくり
-市民が参加した住民視点の計画づくり-
- 目標が明確で、成果が評価できる計画づくり
-総合計画が何を目指し、どれだけの事を達成していくかを明確にした計画づくり-
- 現在から20年後までを見据えた持続可能な計画づくり
-将来に負担をかけない計画づくり-
- 重点目標を明確化した計画づくり
-施策を身近に感じることができる計画づくり-

5 新総合計画の策定手法



6 新総合計画の構成と期間

将来構想

宮津市が目指す将来像とそれを実現するためのまちづくりの基本的な方向性を示すもので、基本計画、実施計画の基礎となるものです。

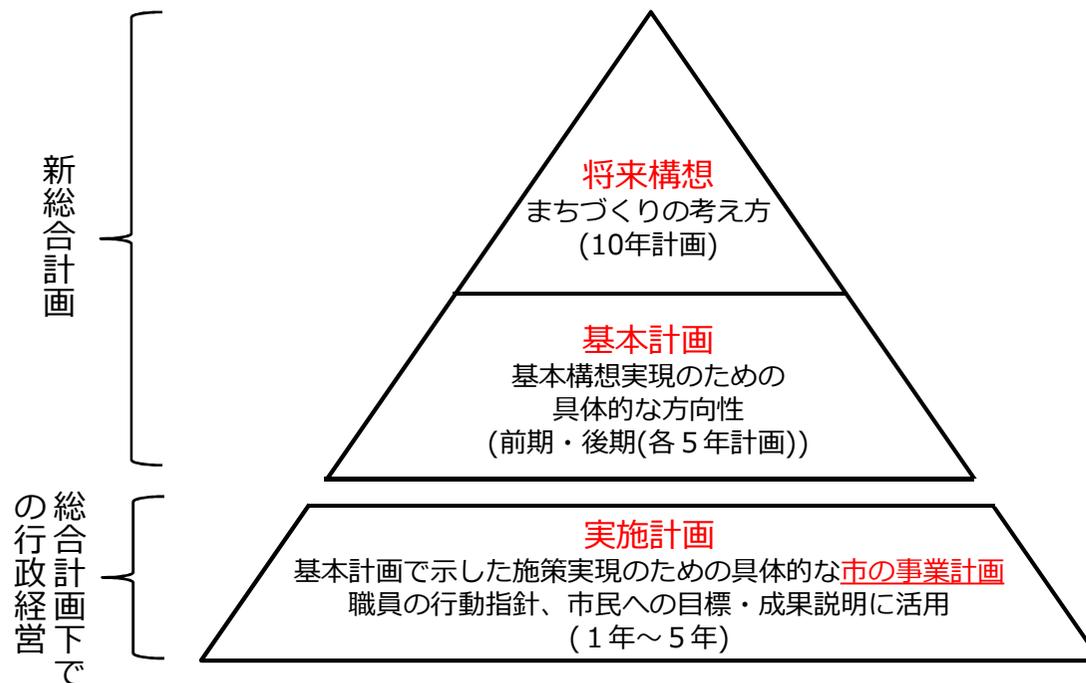
計画期間：令和3年度～令和12年度(10年間)

基本計画

将来構想に掲げる将来像の実現に向けて、まちづくりを総合的・計画的に推進するため必要となる施策を分野ごとに示すもので、社会経済情勢の変化や基本計画の実施状況を踏まえ、前期、後期に分けて策定します。

計画期間：前期 令和3年度～令和7年度(5年間)

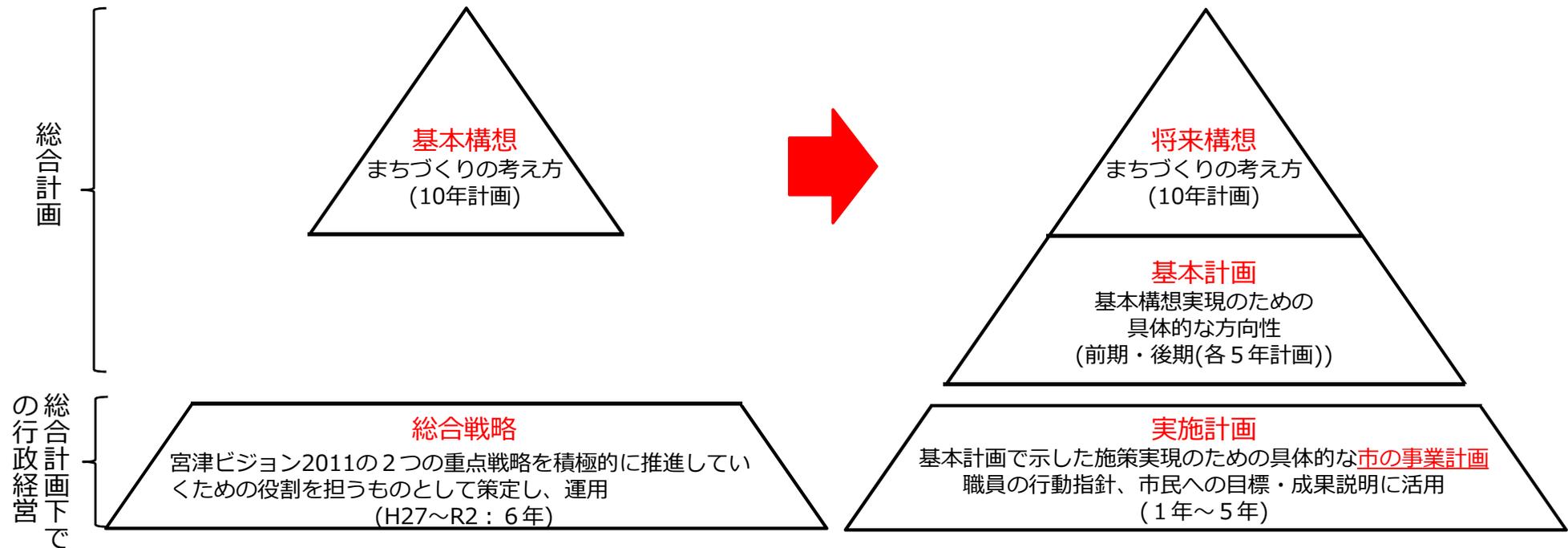
後期 令和8年度～令和12年度(5年間)



7 現総合計画と新総合計画について

「みやづビジョン2011」

「新宮津市総合計画」



【相違点】

- 「みやづビジョン2011」は、基本構想のみで構成されており、実施計画として「宮津市まち・ひと・しごと創生戦略」を策定し、運用しています。
- 「新宮津市総合計画は」、将来構想と基本計画の2部構成とし、市の事業計画として実施計画を策定します。

8 将来構想

「10年後に実現したい宮津の姿」に係る市民アンケートやタウンミーティングでの主な意見

○若者定住

- ・子育て支援の充実した宮津、若い世代への支援が充実した宮津
- ・若者が生き生きと生活出来て、子供達の笑い声が聞こえる街
- ・若者たちが地元就職をして帰ってきたくなるような街
- ・若者の定住者が増えるように、雇用の充実、子育て支援の充実した街
- ・働く場所が増えて、若者や子どもたちが住みやすい宮津。お年寄りも若者も一緒に楽しく過ごせる宮津
- ・子供が都会に出てもいつか宮津に戻って来たい気持ちを持ってもらえるような街

○全世代

- ・医療体制を整えて安心して生活出来る街
- ・住みやすく、地域住民との関わりや地域行事が苦にならない、代々が住める街
- ・人口が少なくても人々が心豊かに暮らしていける街
- ・福祉が各地域で充実しており、孤立感を感じない宮津
- ・地域の絆が強く、お互いが助け合えるコミュニティのある街



【実現したい姿】

- 宮津を出た若者が帰って来る街
- 雇用の充実した、暮らしやすく、子育てしやすい街
- 健康で安心して暮らせる街
- 地域コミュニティが充実した街

8 将来構想

【宮津市の目指す将来像】

(例)

「若者が帰って来るまち みやづ」

「生涯現役のまち みやづ」

「若者がかがやくまち みやづ」

「みんなが感じる“いいね”みやづ」

「行きたいまち 帰って来たいまち 住み続けたいまち みやづ」

「人が 来るまち 帰って来るまち 住み続けるまち みやづ」

策定委員会や市民の皆様のご意見を反映して設定します。

【将来像の実現に向けた5つの視点】

市民協働

Society
5.0

SDGs

アフター
コロナ

健全な
行政運営

【将来像の実現に向けた5つの柱】

地域経済力が高
まるまちづくり

若者が定住でき
るまちづくり

安全・安心に
生活できる
まちづくり

ふるさとを
大切にする
まちづくり

みんなの宝を共
に考え、発信で
きる協働の
まちづくり

9 将来構想・基本計画の5つの視点

1 市民協働

将来像の実現は、行政だけでできるものではありません。市民、各種団体、企業など地域を構成する全ての主体が知恵を絞り、力を合わせ、主体的なまちづくりの取組を実現することが重要です。

2 Society 5.0

ICTやIoT、AI等の先端技術は、これからの社会において経済発展と社会的課題の解決に資するツールであり、様々な分野での活用が期待されています。
このような中、宮津市においてもICT等を施策に取り込んでいくことが必要となってきました。

3 SDGs (Sustainable Development Goals)

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、「誰一人取り残さない」という「包摂性」やあらゆるステークホルダーが役割を担う「参画型」などを主要原則としており、経済や環境、貧困対策等様々な分野で取り組まれています。
このような中、宮津市においてもSDGsに合致する取組をしていくことが重要です。

4 アフターコロナ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、日本だけでなく世界中で経済や社会のあり方が大きく変化しており、新型コロナウイルス感染症発生前の社会には戻らないであろうと言われています。
このような中、宮津市においても新型コロナウイルス感染症収束後(アフターコロナ)の社会を予測して対応していくことが必要です。

5 健全な行政運営

将来像の実現に向けては、中長期的に安定した行財政運営が必須となります。行財政運営指針や公共施設再編方針等に基づき、経営視点に立った効率的・有効的な行政経営を進めます。

10 基本計画

基本計画は、将来構想に掲げる将来像の実現に向けて、まちづくりを総合的・計画的に推進するため必要となる施策を分野ごとに示すものです。

新総合計画においては、将来構想で定めた「将来像の実現に向けた5つの柱」をテーマ別戦略として位置付け、戦略毎に実施する施策と達成すべき目標を設定します。

1 地域経済力が高まるまちづくり

【分野】 ・ 商工業振興 ・ 観光振興 ・ 農林水産業振興

2 若者が定住できるまちづくり

【分野】 ・ 定住促進 ・ 関係人口 ・ 子育て支援

3 安全・安心に生活できるまちづくり

【分野】 ・ 防災対策 ・ 防犯対策 ・ 高齢者、障害者福祉 ・ 健康づくり ・ 交通施策
・ インフラ整備 ・ 環境衛生

4 ふるさとを大切にすまちづくり

【分野】 ・ 学校教育 ・ 社会教育

5 みんなの宝をともに発信できるまちづくり

【分野】 ・ 人財づくり ・ 環境保全 ・ 市民協働 ・ 情報発信

11 5つのテーマ別戦略

1 地域経済力が高まるまちづくり

宮津市は日本三景天橋立をはじめとした観光資源や豊かな地域資源がある京都府内有数の観光地です。しかし、商工業の衰退や通過型観光が主流であり観光消費額があまり増加しない等様々な課題もあります。

このような課題を克服し、世界に誇れる観光都市を目指し、一次・二次・三次産業がともに元気で雇用の確保につながる、地域経済力が高まるまちを目指します。

【施策分野】

- ・ 商工業振興
- ・ 観光振興
- ・ 農林水産業振興

【タウンミーティングでの関係する意見】

現状と課題等	アイデア・提案
<ul style="list-style-type: none">・ 宮津は観光のみ・ 商店もなくなっていく、商店街も廃れた。・ リピーター確保が弱い。・ <u>農林水産物の知名度が低い。</u>・ <u>お金が地元に落ちない。</u>・ 宿泊する人が少ない。・ 観光ガイドがない。・ 飲み屋が少ない。・ <u>外国語対応ができてない。</u>・ 観光客を迎える側の意識改革が必要・ 地元の名物を活かしてない。・ 宮津にあるもの、外の人が求めるものを知る必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・ <u>地域資源を利用した観光</u>・ 感動に繋がる体験型観光・ 夜に外に出て楽しむイベントの実施・ <u>宮津にしかないイベントの実施</u>・ 外から人を連れてくる。・ IT分野の誘致・ <u>今あるものを掛け合わせて、付加価値をつける。</u>・ 農業・漁業の担い手育成が必要・ 情報発信を工夫して、農業・漁業を儲かる産業にしていく。・ 民間活力による空家・空き店舗の活用推進と移住促進・ 「天橋立」を男女の聖地としてプロモーション・ 丹後の自然と暮らしを感じる体験イベントの実施

11 5つのテーマ別戦略

2 若者が定住できるまちづくり

宮津市においては、少子高齢化の進展と若者の転出増加により人口減少に歯止めがかからない状況となっています。

地域コミュニティ存続のためには、若者が増加することが重要です。人口減少に歯止めをかけるため、若い世代の雇用の場の創出から結婚・出産・子育てまで様々な支援を行うことにより、若者が定住できるまちづくりを進めます。

【施策分野】

- ・ 定住促進
- ・ 関係人口
- ・ 子育て支援

【タウンミーティングでの関係する意見】

現状と課題等	アイデア・提案
<ul style="list-style-type: none">・ やりたい仕事がない。宮津にどのような仕事があるか知らない。・ 親から大学に行ってそのまま都会で就職と言われる。・ 市役所の施策が見えない。・ 若者が楽しめる場所がない。・ 若者が戻ってこない。・ 地域の作業等が面倒という認識が強い。・ 子どもが遊べるところ、子どもを連れていけるところが少ない。・ 必要な人に情報が届いていない。	<ul style="list-style-type: none">・ 今ある仕事の魅力が上がれば人は来る。・ 地域行事等に子どもの時から関わり、愛着を持たせ、戻ってきたいと思わせる風土づくり・ 移住者が地域に参加しやすい環境づくり・ 子どもに「格好いい大人の姿」を見せることで、地元愛を育む。・ 今あるものの機能強化やルール緩和し、組み合わせることで楽しみ場を作るとともに、楽しさをSNS等で伝える。行政はルールの緩和や助言によるサポートを実施・ 職場体験・インターンの機会を増加させる。・ 行政・地域・企業が一緒に「若者が選択してくれるまち」を考える。・ 地域住民の負担による地域活動の担い手への報酬制度の創設・ 若い子育て世代を惹きつける施策(オムツ券の発行、光熱水費の補助、自治会業務の軽減等)の実施・ 市民ができることを登録する市民全員人財センターの創設

11 5つのテーマ別戦略

3 安全・安心に生活できるまちづくり

自然災害の増加や高齢化が進む中、ハード面・ソフト面ともに安全であることが暮らしの安心につながります。高齢者・障害者福祉が充実し、災害への備えを整えた、市民一人ひとりが健康に安心して生活することができるまちづくりを進めます。

【施策分野】

- ・ 防災対策
- ・ 防犯対策
- ・ 高齢者、障害者福祉
- ・ 健康づくり
- ・ 交通施策
- ・ インフラ整備
- ・ 環境衛生

【タウンミーティングでの関係する意見】

現状と課題等	アイデア・提案
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域には色々な活動グループがあるが、グループ同士の繋がりはない。 ・ 市からの情報が市民まで伝わってこない。 ・ 犯罪から更正後の受入れ体制がない。 ・ 福祉現場の人手不足 ・ 高校卒業後に宮津を出てしまう。 ・ 買い物する場所がない。交通が不便なため足がない高齢者は大変 ・ 福祉を充実させるには、地域経済が重要 ・ 高齢者の足をどうするかは、重要な課題 ・ 宮津市は退職してからのんびりと過ごせる環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な人が交流することで、新たな居場所の創出や安全・安心に生活できるまちづくりに繋げる。 ・ 地域のイベント減少が地域のつながりの衰退に繋がっているので、地域でのイベントをやっていく。 ・ 福祉現場での外国人労働者の雇用 ・ 宮津市の住みやすさをアピールする。 ・ 空家を利用した地域の憩いの場づくり ・ 空家を活用した高齢者の集いの場の開設及び住民同士の助け合いシステム作り ・ 福祉を宮津の基幹産業に位置付け、循環型の経済をつくる。 ・ 小型のワンボックスカーを活用した観光客も市民も利用しやすい循環型バスの導入

11 5つのテーマ別戦略

4 ふるさとを大切にすまちづくり

宮津で生まれ育った若者が進学等で宮津を離れても、将来、宮津に帰って来るためには、雇用の場等の創出と合わせて、地域への愛着(郷土愛)を育むことが重要となります。

教育は「地域社会にとって未来への希望、未来への投資」です。明日の宮津を担い、創る人づくりに向けて、宮津ならではの教育を進めることで、ふるさと宮津に誇りや愛情が持てるまちづくりを進めます。

【施策分野】

- ・ 学校教育
- ・ 社会教育

【タウンミーティングでの関係する意見】

現状と課題等	アイデア・提案
<ul style="list-style-type: none">・ 人口減少、少子高齢化、若年層の市外への流出・ 雇用の場が少ない。・ 地域内の関わりの希薄化・ 必要な情報発信が不足している。・ 地域出身者や地域の文化以外を排他的に受け止めがち・ 空家が活用できていない。・ 若者世代に元気がない。	<ul style="list-style-type: none">・ 地域の高齢者が地域の歴史文化等を話す「ふるさと塾」の開講・ 職業体験の充実・ 子育て支援とからめて、若い家族を呼び込む。・ 食育を通じて、子どもに宮津の良さを伝える。・ 地域ぐるみで宮津の魅力を発信・ 観光専門コースを高校に設置・ 食育を通じた、1次産業への興味の増進・ 宮津の強みを活かした世界に通じる教育の実施・ コミュニティスクールを活かした地域活性化・ 地域や人とふれあう機会を増やし、地元愛と学びを深める「ぐるっとみやづ」の実施・ VR等を活用した学校教育の実施

11 5つのテーマ別戦略

5 みんなの宝をともに発信できるまちづくり

宮津には素晴らしい地域資源(宝物)が多くありますが、市内外へのPRが弱く、活用しきれれていない状況があります。

これらの宝物を活用し、地域の活性化に繋げるためには、活用できる「人財」を育成し、みんなが一緒になって地域の宝を発信していくことが大変重要です。市民の皆さんと一緒に考え、情報発信力を強化し、みんなの宝をともに発信できるまちづくりを進めます。

【施策分野】

- ・ 人財づくり
- ・ 環境保全
- ・ 市民協働
- ・ 情報発信

【タウンミーティングでの関係する意見】

現状と課題等	アイデア・提案
<ul style="list-style-type: none">・ <u>宮津は全国的に有名なもののルーツ等も多くあるが、活かせていない。歴史文化を知る人を作れていない。</u>・ <u>天橋立以外のブランディングができていない。</u>・ 天橋立だけでは、リピーターの確保は難しい。・ 若者がコミュニティを築ける場がない。・ <u>人手不足による地域行事等の継承問題</u>・ 都会にない良さがたくさんあるが、少子高齢化が進み昔のような活気がなくなりつつある。・ 宮津で誇れるものは、自然環境や観光産業、祭り等の無形文化	<ul style="list-style-type: none">・ <u>宮津を知る人を育てる。</u> そのために、宮津の観光に特化した高校(クラス)を創設する。・ <u>宮津で新しいプロジェクト等にチャレンジしている人を市内外にアピールするとともに、そういう人とモノを掛け合わせ、観光以外のものを市外に売り出していく。</u>・ 若い人たちが集まってコミュニティを作れる場を作る。・ <u>頑張っている人の情報発信</u>と併せて、市外に宮津の文化や産業などの魅力を発信するネットワークを作り、情報共有や意見交換できる場を作る。・ 官民一体型の情報政策発信組織の設立・ 市民一人ひとりができることでコミュニティスクールに参加できるような仕組みづくり